

## ドキシソルビシン血管外漏出(EV)時の対処法の例

---

- 1 投薬を中止する。
  - 2 留置針はすぐに抜かずに、可能な限り薬剤を吸引した後に留置針を抜去する。  
漏出した薬剤や量によっては漏出部位を切開して洗浄する。
  - 3 冷罨法を1回15～20分、1日4回2～3日継続する。
  - 4 EV後3～6時間以内に、デクスラゾキサン300～mg/m<sup>2</sup>（ドキシソルビシン投与量の10倍以上が目安）を15～30分かけて別の血管から静脈内投与する。  
理想的には翌日、翌々日も同量のデクスラゾキサンを静脈内投与する。
- 

補: デクスラゾキサンを心筋保護目的で投与する場合はドキシソルビシンの10倍量をドキシソルビシン投与30分前にゆっくりボース投与する

### 参考文献

Venable, R.O., Saba, C. F., Endicott, M. M., *et al.* (2012) : Dexrazoxane treatment of doxorubicin extravasation injury in four dogs. *J. Am. Vet. Med. Assoc.* 204(3) : 304-307.

Villalobos, A. (2006) : Dealing with chemotherapy extravasations: a new technique. *J. Am. Vet. Med. Assoc.* 42(4) : 321-324.

Thamm, D.H. (2011) : Management of chemotherapy side effects. In : Cancer chemotherapy for the veterinary health team. (Kenneth, C. ed) pp101-112. Wiley-Blackwell. Iowa state.